

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・販売単価は低下しているが、買上点数が増加している。売上もそれに伴い増加している。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・北陸新幹線の開業を控え期待ムードが高まってきている。新幹線の開業前は観光客が減るのではないかと予想されていたが、入込客は減るどころか若干増えている。開業を見据えて新規の飲食店もかなり増え、それぞれがにぎわっている。既存の店舗もリニューアルなどを施し、集客は順調である。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・台風の影響で客足は少ないが、気温が低くなったことから婦人服の売上が良い。ファッション商材もそうだが、羽織物の動きがとて良く、単価上昇につながっている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・衣料品では朝晩の気温が下がり、肌着、靴下、寝具などの実用品の売上が伸びている。食品では来客数は相変わらず前年を下回っているが、客一人当たりの買上点数が前年を上回り、売上は前年と同程度をキープしている。
		スーパー（統括）	来客数の動き	・来客数ということでは3か月前からみると、10月については安定している。売出しについても、ほぼこちらの予測通りの来店になっている。10月だけをみていると、3か月前と違い、客が競合店の売出しなどには左右されていないという状況がある。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・店舗近隣にある24時間営業の飲食チェーン店が営業時間の短縮をした。そのためか、深夜の来客数が微増している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・北陸新幹線開通まで140日を切り、建設業界ではこの30年で最も景気が良いという声を聞く。接待や社内慰労会などの利用が増加している。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・9月、10月と大型団体の取込みができ、前年比10～20%の売上増になっている。
		タクシー運転手 通信会社（職員）	来客数の動き 販売量の動き	・営業関係の県外からの出張が多くなっている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・一過性ではあるが、秋は地域イベントが多数あり、イベント会場販促が好調だった。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・人気のあるスマートフォン機種在庫状況が改善せず、欲しい客は増えているが商品が思うように入っていないため、今後の入荷状況次第で更に販売が加速すると思われる。また、その機種がきっかけで来店し、別機種にする客も増えている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・来年からの消費税増税の可能性もあり、真剣に住宅を検討している人が増加していると思う。
	変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き
		商店街（代表者）	お客様の様子	・暖かい日と寒い日が、交互にやってくる。着るものに迷いがあるのか、すっきりと冬物へ手が出ない状態である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・10月下旬に入って一気に寒さが増してきたが、秋冬物の買物客が期待していたほど伸びない。休日は観光地などに出かけて、かと言ってお金は使わないことが多いようで、買物からは足が遠のいている様子である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・当商店街の各店舗状況を聞き取りして感じることは、前月などとほとんど変わらないが、客は必要なもの以外はあまり買わない状況ということである。商店主と話をすると、生活に必要な物品は購入するが、ぜい沢なものや高級品を買う人は少ないと言われる。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・全体的には変化は見られないが、最近は月初に買物が多く、月末に買い控え傾向が見られる。月内で買物支出をコントロールしているように思われる。

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・10月、11月は冬のファッション商材や冬の暮らし商品などが動く時だが、全体的には当地は気温が高めで、コートや鍋などの利用が少なく、シーズン商材が少し停滞している。日常的な食などについては、ほぼ前年並みであるが、一部シーズン商材が、天候のせいでも少し落ちているかなというのが当月の状況である。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ最近の流れからいくと、特に来客数の方は変わらない状況が続いており、この後もこの状況が続くのではと思う。
スーパー（店長）	販売量の動き	・客の買物状況をみても、広告の品やセール品の販売量が以前と変わりなく、極端に売れる商品も少なくなっている。ほかの業種での取扱いも増えているからだと思われる。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・先月同様に一部商品の値上がりが続く中、販売量は昨年並みに推移しており、特に変化はない状況である。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・近隣の野菜中心の小さなスーパーが、最近来客数が増えて忙しいと話している。高くはないかもしれないが、安いわけではない、なぜか。今まで働いていなかった奥さんも手伝って、家族だけで盛り上げているという話が新聞に載ったからである。しかし、その分どこかの店の売上が減少して困っているはずとか。消費が増えたわけではないそうである。
衣料品専門店（総括）	来客数の動き	・客単価は上がっているが、来客数の落ちが大きいため3か月前と変わらずやや悪い。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・昨年より新築需要が落ち込んだせいか、単価が下がってきている。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・例年通り公的施設を借りての展示会を開催したが、来場者数が例年の60%であった。客の購買意欲が大変少ないと思われる。
自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・依然、集客面では厳しい状況である。車販売、車両メンテナンスでは多少上向き傾向に感じられるが、単価の上乗せにつながらず、前年を割れている状況が続いている。
住関連専門店（店員）	競争相手の様子	・例年の流れであれば、年内引き渡しの新築物件の増加に伴い、10月から年末へ向けての需要が拡大するこの時期ではあるが、当店の来客数や購入点数、単価からみても、そして大手競合他社の売上減少からみても景気が上がっているとは思えない。
その他小売 [ショッピングセンター]	販売量の動き	・肌寒い天候が続き、秋ものや初冬もの衣料、寝具、なべ食材の動きがよいが、買物の仕方は必要なものを必要な量だけ買い求めており、節約志向はまだまだ根強い。ただし、趣味嗜好性の強い商品は、積極的な興味を持たれている。
その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	販売量の動き	・映画のヒット作品に支えられた好調な集客に陰りがある。なおかつ衣料品を中心に販売量の苦戦が続いている。
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・対前年売上94.0%、宿泊人数91.4%、宿泊単価103.1%となっている。夏の天候不順の余韻を引きずり個人客が低迷したこと、インパウンドが前年比50%となったことが影響した。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・足元の売上は回復基調にあるという実感がない。仕入コストの上昇を単価に上乗せできない。価格に対する見方が、消費税増税後ますます厳しくなっていると感じる。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・手配先が大変混み合っていて、予約が難しい状況であり、団体客、個人客共に前年より売上が増加してきている。
通信会社（店舗統括）	お客様の様子	・こちらからの販売提案に対して価格ではなく何らかの価値を見出さないと購入につながらない。逆に価値があると思っていただければ価格に関係なく販売につながることもある。景気としては上向きとは言えないが下向きとも言い切れない。
その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・会員の入退会による増減が一進一退である。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・来客数はそこそこの水準で推移しているものの、何となく来客数が増えてきている感じであり、明確な意欲が感じ取れない。連動してビジネスチャンスにはつながらず力強い動きになってきていない。

	住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・客から提示された他社の条件を見ると、今までにない値引き額やサービスを行っている。少ない客を取り合う環境がより厳しくなっている。
やや悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕(店員)	単価の動き	・消費税の影響による買い控えが続く中で、仕入原価が上がり利益率の減少がみられる。
	一般小売店〔書籍〕(従業員)	お客様の様子	・アベノミクスの効果は地方では弱く、大半の業種は顧客の購買意欲はいまだに厳しいと感じている。
	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数の減少は相変わらず止まっておらず、前年比で10%以上の低下が続いている。客単価については、上昇しないとおかしい傾向なのかもしれないが、上昇せず微減の状態が続いている。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・前月の報告と同じ内容になるが、8月末に近隣に競合店が新しく出店し同業者三大チェーンがそろい踏みとなったことにより、売上は前年比92%とあきらかに3か月前より落ち込んでいる。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・季節的に当然なのだが、消費税増税とそれに伴う価格の表示のクレームが思った以上に多い。以前は税込表示を義務化していたが、現在は両方表示しているため、勘違いして会計時にえっ？と言う客が少々いる。売上は当然前年割れしているが、競合他社が県内に増えてから1年以上たっていることから需要と供給のバランスによる売上減少ではなく、原因はほかにあると思われる。飲料などの150円を上回る中途半端な価格設定など、売上前年割れの理由を挙げるときりがない。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・客の生活の中に、節約が定着してきている気がする。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・相変わらず売上の前年割れが続いており、好転の兆しが感じられない。その割に人手不足もあり、人件費を含め経費が上昇している。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新車、中古車共に受注が伸びず、新規の来客者も少ない。
	乗用車販売店(役員)	販売量の動き	・車両販売に関しては受注、販売共に停滞している。修理の方も車検、钣金等が鈍い状態なので、全体として活気に欠けているようだ。
	乗用車販売店(経理担当)	販売量の動き	・10月の販売量は前年同月比88%である。26年7月の販売量は前年同月比106%だったので、3か月前比較で下向きである。消費需要の回復はかなり遅いと考えられる。
	その他専門店〔酒〕(経営者)	販売量の動き	・原因は分からないが、10月は店売りも悪く、納品しているバーや料理屋のほうも悪い。
	一般レストラン(店長)	来客数の動き	・秋の行楽シーズンを迎え、かなり期待していたが、例年より客足が鈍い。
	一般レストラン(統括)	それ以外	・仕入原材料価格の上昇だけでなく、一部原料では供給不足までが発生。売価に転嫁できない状況の中で原価アップだけが先行中であり、利益を圧迫している状況である。人手不足も発生しており、新しい取り組みをする余裕がなくなってきた。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・当店は年金生活者の比率が高くなってきていることから、単価が低下し客が減少してきている。地方銀行員に聞くと、それほど給料が上がっていない中で、消費税や年金保険料がアップし、生活が引締められているとのことである。これでは良い材料がなく、10月はマイナスだった先月よりも1割増したが、先月と同様赤字になりそうである。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・消費税増税後の回復の弱さを感じられる。
タクシー運転手	来客数の動き	・個人消費は厳しく、財布のひもが固く、良くない。夜の街は平日は寂しく、良くない。週末でやや人出があり、売上が少し増加するが、全体としてはあまり良くない。	
通信会社(役員)	販売量の動き	・大手通信事業者との競合が一段と厳しさを増しており、消費税増税による家計支出抑制に向けた心理的影響もあり、契約獲得数は昨年同期に比べ落ち込んでいる。	

	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・前年同期比で3か月前と現在を比較してみると、インバウンド客はやや回復傾向にあるものの、国内客は団体、個人を問わず前年割れの状況が続いている。主な要因は、消費税増税や国内のバス料金の規制による値上がりだと思われる。また、ガソリン価格の値上がりなどによって旅行マーケット全体の動きが鈍くなっているように感じる。消費税増税後は特に、買物の売上もやや減少傾向にある。
	競輪場(職員)	販売量の動き	・1日当たりの平均売上額が、3か月前と比べ、約10%落ちている。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・8月、9月、10月と3か月連続で来客数が前年割れしそうである。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・個人住宅は、消費税率アップも見込まれる中、イベントの来場数は多いが、契約締結まで時間を要し、競合も激しくなってきた。一棟あたりの受注金額も小さくなってきている。法人の設備投資は活発ではあるが、利益率も厳しく、競合も激しい状況は個人住宅と同じである。今後一段と厳しさが増すものと予想される。
	悪く なっている	-	-
企業 動向 関連 (北陸)	良く なっている やや良く なっている	-	-
	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・前年に比べ受注増となっているが、まだまだ勢いが弱い。加えて、コストアップ分の価格転嫁については厳しい状態が続いている。
	輸送業(配車担当)	受注量や販売量の動き	・輸送量が増えてきていて軽油価格も以前に比べると下がっている。
	変わらない	食料品製造業(役員)	受注価格や販売価格の動き
		繊維工業(経営者)	取引先の様子
		プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き
		建設業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き
		輸送業(配車担当)	取引先の様子
		金融業(融資担当)	取引先の様子
		司法書士	取引先の様子
	やや悪く なっている	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き
		精密機械器具製造業(経営者)	取引先の様子
		税理士(所長)	取引先の様子
	悪く なっている	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き
			・同業者関係に話を聞いているが、なかなか購入者がいないということである。そうした状態の中で、個人客も出てきていないという声が多い。

雇用 関連 (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社 (役員)	求人数の動き	・景気の先行きはよくなる方向に思われるが、目に見えて企業側の活発化は進んでいない様子である。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ここ最近、職種にもよるが求人数、求職者数ともに減少しており、専門職などの求人の対応に苦労している。
		新聞社 [求人広告] (役員)	求人数の動き	・10月の求人広告売上は、前年同月から4割減である。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は対前年比で増加している。景気がいいという話は少なくなったが、求人意欲はある程度継続してあるようだ。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・最近4か月の求人数の変動があまりないことから、状況は変わっていないと思われる。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人で、建設業、卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業で新幹線開業に関連する求人が目立ち始めているものの、製造業において力強さが感じられない。
		民間職業紹介機関 (経営者)	求職者数の動き	・派遣及び紹介の登録者数が減少している。人材不足は継続している。失業中の職業訓練受講者の中に、働く意欲のない人が3~4割くらいいると聞いた。
	学校 [大学] (就職担当)	採用者数の動き	・今年度卒業予定学生の内定状況は、昨年同月比で若干であるが増えている。	
	やや悪く なっている	求人情報誌制作会社 (編集者)	求人数の動き	・求人の数が少しだが減った。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・求人広告の件数が3か月前と比べると減少している。
	悪く なっている	-	-	-